

# 地域看護学

## 1 構成員

	平成19年3月31日現在
教授	2人
助教授	0人
講師（うち病院籍）	1人（0人）
助手（うち病院籍）	2人（0人）
医員	0人
研修医	0人
特別研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	8人（0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	0人
その他（技術補佐員等）	0人
合 計	13人

## 2 教員の異動状況

- 三輪眞知子（教授）（H17. 5. 1～現職）
- 巽 あさみ（教授）（H17. 10. 1昇任～現職）
- 中谷 芳美（講師）（H13. 9. 1～現職）
- 上村 妙子（助手）（H16. 4. 16～H19. 3. 31）
- 伊藤 純子（助手）（H18. 4. 1～H19. 3. 31）

## 3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成18年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	2編（2編）
そのインパクトファクターの合計	0
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	4編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	2編（2編）
そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数（うち邦文のもの）	3編（3編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	1編（1編）
そのインパクトファクターの合計	0

### (1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 巽あさみ：上方移動介助における介助補助具の筋骨格系負荷軽減効果に関する実験的研究  
藤田学園医学会誌, 25(1)1-17,2006

インパクトファクターの小計 [0.00]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 鏡森定信, 立瀬剛志, 中谷芳美, 松原 勇, 広田直美, 梶田悦子：温泉は健康寿命の延伸に寄与するか－温泉を利用した健康増進施設を開設したJ町の3年間の追跡調査－, 日温気物医誌, 69, 187-194, 2006.

インパクトファクターの小計 [0.00]

(2) 論文形式のプロシーディングズ

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 金子仁子, 標美奈子, 増田真也, 宮川祥子, 三輪真知子, 渡邊輝美, 唐木暁子, 及川智香子：青年期を対象としたインターネットによる子育て学習支援プログラムの開発 平成17年度～平成18年度科学研究費補助金（基盤研究（B））による研究課題（課題番号17390593）研究成果報告書, 2007. 3月
2. 烏帽子田 彰, 藤本真一, 三輪真知子, 石川貴美子, 水野小まり, 伊藤純子, 鈴木由香里：市町村合併に伴い期待される保健師の機能に関する研究－フォーカスグループインタビューからの検討－ 平成18年度厚生労働科学研究費補助金（地域健康危機管理研究事業）「市町村合併に伴う地域保健事業及び自治体事務の影響評価と今後の効率的推進に関する研究」分担研究報告書,2007. 3月
3. 小野雄一郎, 長岡芳, 今枝敏彦, 蛭田秀一, 島岡みどり, 巽あさみ, 飯田忠行他：筋骨格系負荷の高い介護条件における各種介助技術の有効性に関する実験的研究 平成18年度科学研究費補助金（基盤研究（C））による研究課題（課題番号16590490）分担研究報告書, 2006
4. 下光輝一, 亀ヶ谷律子, 巽あさみ, 寺内清高, 広瀬俊雄他：職業性ストレス簡易調査票及び労働者疲労蓄積度自己診断チェックリストの職種に応じた活用法に関する研究 厚生労働科学研究費補助金（労働安全衛生総合研究事業）研究報告書, 2006

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 三輪真知子, 地域看護学における健康と社会経済環境との関連, Nurse eye, Vol.19, NO.2, 88-95, 2006.
2. 三輪真知子, 村松智子, 大滝とみ江, 橋ヶ谷道子, 原田かほる, 石原隆弘.「市民・企業・行政が連携した全市ぐるみの嚙下障害ケアの実践活動の研究：第一部」, 11-55, 「看護と社会」研究会編, 2006.

インパクトファクターの小計 [0.00]

#### (4) 著 書

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 佐々木美佐子, 牛尾裕子, 村田篤司, 村井貞子, 松田正巳, 深江久代, 三輪真知子, 奥野ひろみ, 鈴木千智, 永田文子, 小川亜矢, 中谷芳美, 松下裕子, 他: 2007年度版保健師国家試験問題-解答と解説-. 医学書院看護出版部編 (三輪は地域看護学Ⅲ・地域看護学Ⅳ「在宅ケア・在宅看護」「災害看護」, 中谷は地域看護学Ⅱ「母子保健指導」「学校保健指導」の覚えておきたい重要事項を担当), 医学書院, 2006.
2. 二木鋭雄, 高木邦明, 巽あさみ, 栗山健一, 金子明裕, 宮崎隆穂, 坪井裕仁, 稽吉篠太郎, 糸川昌成, 吉川武男, 本橋伸高, 古谷学, 金子宏, 入江正洋, 他. 監修横腰英彦: 抗ストレス食品の開発と展望. (巽は「ストレスと情動」を担当), 株式会社シーエムシー出版, 2006.
3. 渡部月子, 鈴木千智, 標美奈子, 中谷芳美, 奥山則子, 他: 保健師国家試験予想問題2007, 保健師教育研究会編, 騒人社, 2006.

#### (5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 巽あさみ: 女性労働者の女性特有の健康問題とストレスに関する検討. 独立行政法人労働者健康福祉機構 産業保健情報誌 さんぽ. 静岡産業保健推進センター, 11(22)8-11,2006  
インパクトファクターの小計 [0.00]

### 4 特許等の出願状況

	平成18年度
特許取得数 (出願中含む)	0件

### 5 医学研究費取得状況

	平成18年度
(1) 文部科学省科学研究費	2件 ( 170万円)
(2) 厚生科学研究費	0件 ( 0万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 ( 0万円)
(4) 財団助成金	1件 ( 200万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 ( 0万円)
(6) 奨学寄附金その他 (民間より)	0件 ( 0万円)

(1) 文部科学省科学研究費

- ・三輪真知子 (代表者) 基盤研究 (c) 一般 子ども虐待を未然に防ぐ予防的家庭訪問プログラムの開発に関する研究 120万円 (新規)
- ・巽あさみ (代表者) 基盤研究 (c) 一般 女性労働者が健康に働き続けられるための職場健康支援システム開発に関する研究 50万円 (継続)

(4) 財団助成金

三輪眞知子 日本人研究者海外派遣研究助成（ファイザーヘルスリサーチ振興財団）  
看護師主導サービスの効果に関する研究 200万円（新規）：英国

## 7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	0件
(3) 学会座長回数	1件	2件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	7件
(6) 一般演題発表数	1件	

(1) 国際学会等開催・参加

4) 国際学会・会議等での座長

Machiko MIWA, The 6th Kyungpook-Hamamatsu Joint Medical Symposium, Hamamatsu Meeting, Session on Nursing Research, Hamamatsu University School of Medicine, October 27th

5) 一般発表

ポスター発表

1. Kajita E, Nakatani Y, Matubara I, Komatu M, Takeuchi S, Kagamimori S: Relationship between the experience of falls and fracture and the state of social participation in female elderly people living in local community, Osteoporosis International: 17, 55, 2006

(2) 国内学会の開催・参加

4) 座長をした学会名

三輪眞知子 日本看護研究学会 平成18年3月 第11回東海地方会  
巽 あさみ 日本産業衛生学会 平成18年東海地方会

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

三輪眞知子 「看護と社会」研究全国集会実行委員  
三輪眞知子 日本看護研究学会 査読委員  
三輪眞知子 日本看護科学学会 査読委員  
巽 あさみ 日本産業衛生学会 代議員  
巽 あさみ 日本産業衛生学会 東海地方会 理事  
巽 あさみ 日本看護医療学会 評議員 査読委員  
巽 あさみ 東海公衆衛生学会 理事

## 8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	0件

## 9 共同研究の実施状況

	平成18年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	2件
(3) 学内共同研究	0件

### (2) 国内共同研究

#### 1) 就労女性健康研究会.テーマ「女性労働者のための健康職場づくりチェックリスト」

K.Kogi, K.Aoyagi, M.Nohara, K.Aizawa, Y.Araki, A.Tatsumi, *et al* : Practical Guide on Occupational Safety and Health of Working Women. Research Group for international Cooperation in Occupational Health. Research Group for Working Women's Health. Japan Society for Occupational Health. 2006

#### 2) 介護作業負担研究会.テーマ「筋骨格系負荷の高い介護条件における各種介護技術の有効性に関する実験的研究」平成16～18年度. 名古屋大学総合保健体育センターにて介護作業実験 (2006.

8) メンバーの中に巽あさみ

## 10 産学共同研究

	平成18年度
産学共同研究	0件

## 11 受賞

### (3) 国内での受賞

巽あさみ 日本産業衛生学会産業看護部会 ポスター優秀賞 2006. 9. 23